



菊池館長インタビュー

世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」と  
法正尻遺跡展

思い出まほろん「海を渡った土偶」

遺跡紹介「古代の郡役所でも一般集落でもない遺跡」

図録「法正尻遺跡」のご紹介



まほろんでは新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に取り組んでいます。  
特に体験活動については、職員との接触や近距離での活動を控えております。  
ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。



# 世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」 ほうしゅうじり と法正尻遺跡展

語り手 まほろん館長 菊池 徹夫

聞き手 副館長兼学芸課長 本間 宏

●館長が専門家委員会の委員長を務められてきた「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、ついにユネスコの世界文化遺産に登録されました。長い道のりでしたね。

菊池：地元の住民の方々と行政の皆さんの熱意と根気、文化庁の方々の懸命なご尽力が実を結んだものだと思います。ホッと一安心ですが、むしろこれからが一層大切です。

●今回の登録は、世界史上における縄文時代の特徴が評価された点と、地下に埋蔵されている文化財が対象となったという点が重要です。

菊池：海外の「石とレンガの文化」と違って、縄文時代遺跡の多くは「土と木の文化」の所産と言ってもいいので、発掘してしまえば

穴だらけの姿になるのが普通です。世界遺産への登録にあたっては「完全性」と「真実性」が求められるので、埋蔵された遺跡の背景にある意味をきちんと評価していただけるよう、関係者の皆さんが苦心しました。その結果、採集・狩猟・漁撈で1万年もの長期間にわたり定住生活形態が存続した点と、自然環境に適応した持続可能な生活システムが確立されていた点がきちんと評価されました。地上に露出しているものではなく、埋蔵されている文化財の価値が評価されたということは、北海道・北東北に限らない縄文遺跡群の登録の道が開かれたと考えることができますね。

●そういった意味でも、福島県を含む南東北の縄文遺跡群への理解としっかりした保存もたいせつですね。法正尻遺跡展の意義も含め、そのあたりのことをお話し願います。

菊池：今回の世界文化遺産登録では、縄文文化が人類史上極めて重要な意義を持つと評価されたわけですから、縄文時代像をより完全な形で明らかにできるよう、列島全域での検討と保存という動きにつながってほしいですね。その中でも、今回の登録対象地域に接する南東北の頑張りには特に重要になると思います。まほろんで今年3回にわたって開催してきた法正尻遺跡展は、1,000年にわたる定住集落の移り変わりと特色を明らかにしています。福島県には、このような凄い縄文時代遺跡がまだまだ眠っているのだらうと思います。記録保存のための発掘調査にとどまらず、その価値をきちんと後世につなげられるような文化財の保護・保存と活用を目指してくださるよう、福島の皆さんの活躍に大きな期待を寄せています。



磐梯町と猪苗代町にまたがる法正尻遺跡は縄文時代中期（今から約5400年前〜4400年前）の集落遺跡です。855点が国の重要文化財に指定されている法正尻遺跡の出土品を3回に分けて公開する企画の第3回「法正尻遺跡展3 複式炉の時代」が、10月16日11時から開幕します。併せて、開館20周年記念出版『図録 法正尻遺跡』が出版されます！『法正尻遺跡展』で展示した国の重要文化財はもちろん、今回初公開の資料も多数掲載しています。

また、発掘調査原図に基づき新たに作成した遺構配置図から浮かび上がる法正尻遺跡の知られざる姿も大公開します。

まほろんショップで販売します。

あなたの本棚にも、法正尻遺跡を！



福島県文化財センター白河館（まほろん）  
開館20周年記念出版  
文：河西久子（学芸員）

## 図録 法正尻遺跡

# 海を渡った土偶

担当職員に聞く

聞き手・大山孝正

(専門「学芸員」)

郡山市の荒小路遺跡で出土したハート形土偶(写真)は、

平成13年7月15日のまほろんオープン以来、常設展示室の「生と死」コーナーで展示されて

います。オープン時のポスターや、当時の「まほろんガイド」(常設展示図録)の表紙を飾るなど、まほろんを象徴する土偶ですが、平成21

年にイギリスの大英博物館で展示されるため「海を渡った土偶」でもあります。その時のエピソードなどを、当時ま

ほろんの学芸員として、現地視察にも行かれた大原勉さん(現当財団事務局総務課長)にお聞きしました。

●大英博物館で展示されるこ

とになった経緯を、教えていただ

大英博物館で開催される「THE POWER OF DOGU」展は、67点ほどの日本を代表する土偶が貸し出されることになり、その一つに選ばれたのです。「THE POWER OF DOGU」展は平成21年9月10日から同11月22日まで開かれ、その後、東京国立博物館での文化庁海外展大英博物館帰国記念「国宝土偶展」でも展示されることになりました。8月6日にまほろんを出発。翌年4月に戻ってきました。

●展示状況の確認を兼ねて、ロンドン・パリなどを現地視察されたそうですが？

大原：はい。11月17日から22日まで、私ともう1人の学芸員の2人で大英博物館など

わせてパリ市内の博物館など

を視察してきました。当初行く予定だった学芸員が行けなくなり、代わりに行くことになったのです。出発当日は「おでかけまほろん」(学校への出前授業)と重なり、終わってから急いで帰宅して、出発したのを覚えています。現地の時間を11月18日に、ロンドン・ヒースロー空港に到着し、大英博物館の視察は、11月19日でした。その後、ドーバー海峡を渡ってフランスへ入り、国立考古学博物館などを視察し11月22日に帰国しました。「THE POWER OF DOGU」展では、「まほろん収蔵荒小路遺跡出土土偶」がコーナーパネルに使用され、「ハート形土偶」の中でもメ

インの位置に展示されているのを見て、とても感慨深いものがありました。

また、担当者に「THE POWER OF DOGU」展の展示方法やギャラリートーク

などができ、まほろんにとっ

ても国際交流への大きな一歩になったと思います。



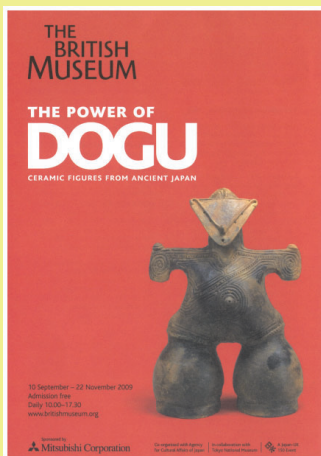
まほろんを出発(平成21年8月6日)



大英博物館外柵ポスター



大英博物館で展示中の荒小路土偶



「THE POWER OF DOGU」  
展示リーフ

●現地の反響はどうでしたか？

大原：国宝の「合掌土偶」(青森県風張1遺跡)や「縄文のビーナス」(長野県棚田遺跡)、重要文化財の「遮光器土偶」(青森県亀ヶ岡遺跡)など、日本を代表する土偶が多数展示され、「縄文人の精神世界や信仰を表現するもの」として、またその造形美が高い注目を集めたようです。まほろん収蔵の土偶が、ヨーロッパの人たちの目に触れることができ、まほろんにとっ

ても国際交流への大きな一歩になったと思います。

●最後に、「北海道・東北の縄文遺跡群」がユネスコの世界文化遺産に登録されるなど、近年、日本の縄文文化への注目度が高まっています。縄文人が残した土偶には、どのような魅力があると思いますか？

大原：文字記録のない縄文時代の人々の思考は、まだまだ分からないことだらけです。土偶はそうした縄文人の思考の一端を知ることができるきっかけとして、重要な考古資料です。まほろんにも福島県内で見つかった土偶が多数収蔵されていますが、土偶の表情やポーズは多彩です。縄文時代の表現豊かでバラエティーに富む土偶を見比べ、当時の人々のさまざまな思いや生活などを想像してみるのも面白いと思います。

表紙の1枚

開館20周年記念の企画展「法正尻遺跡展3」は、10月16日(土)から12月19日(日)まで「複式炉の時代ー縄文集落の画期ー」をテーマに開催されます。野外展示の「縄文時代の家」は、法正尻遺跡で見つかった住居跡をモデルに復元され、複式炉も再現されています。企画展とあわせてご覧いただければ、まるで縄文人がそこにいるかのような錯覚を覚えるかも知れません。

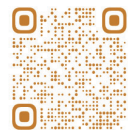
まほろん 随時更新中！

公式SNS フォロー&チャンネル登録お待ちしております！

YOU  
TUBE



INSTA  
GRAM

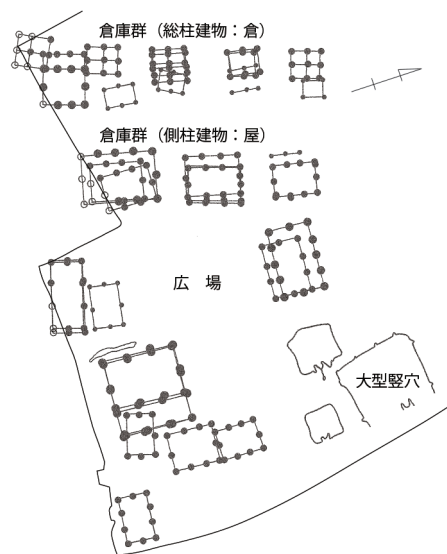


MAHORON.OFFICIAL

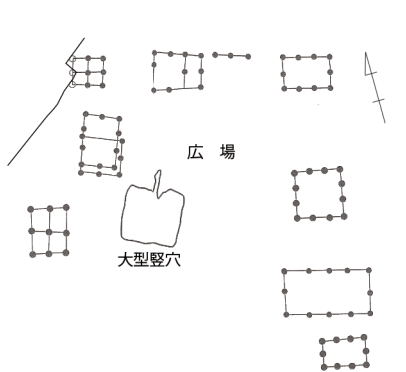
# 古代の郡役所でも 一般集落でもない遺跡

文：菅原 祥夫（専門学芸員）

福島県の官衙・集落研究にとって、大変重要な遺跡です。一般的な集落のイメージとはかけ離れた景観に、調査当時（平成6年）は驚きました。現在は、全国レベルの研究が進んでいます。



【郡山市正直C遺跡V地点】



【須賀川市沼平東遺跡第一次調査区】



【郡山市田向F遺跡】



まほろん野外展示「奈良時代の家」

古代の拠点的な集落跡を発掘調査すると、「郡役所でも一般集落でもない遺跡」と通称される一角が発見されることがあります。ここでは、東北地方の本格的な研究が進む契機となった郡山市正直C遺跡V地点（図左）を紹介しましょう。

正直C遺跡は、陸奥国安積郡の阿武隈川支流（谷田川）の南岸に立地します。古墳時代には手付かずだった台地奥の新規開発に伴い、周辺集落と共に8世紀前半に出現し、9世紀末～10世紀初頭まで営まれました。その中で、V地点は複数の一般集落（図右など）を見下ろす標高の高い位置にあり、「郡役所でも一般集落でもない遺跡」は、ちょうど集落群全体がピークに達する8世紀後半～9世紀前半に存在します。整然と掘立柱建物が並び様子は「官衙（役所）風」と表現するのにふさわしく、多量の食器を保有する大型竪穴建物を構成要素に含む点は、地域開発を主導した有力者の居住施設の側面がうかがえます。

類例には須賀川市沼平東遺跡のような小規模タイプ（図中央）もあり、居住者の階層差を反映したようです。

古代の遺跡の性格は単純に色分けされがちですが、こうした二面性を併せ持つ遺跡の存在は、多様な地域社会を示す点で重要です。実は、まほろんの野外展示「奈良時代の家」は、県内の類例の1つ（白河市谷地前C遺跡27号住居跡）をモデルにしているので、見学の際には、このことを思い出してみてください。

## まほろんの主な今後の予定

※各講座・講演会は事前申込制です。

※新型コロナウイルス感染拡大状況等により予定が変更となる場合があります。詳しくはお問い合わせ頂るか、まほろんのホームページをご覧ください。

10/16（土）午前10時から12/19（日）

企画展「法正尻遺跡展3 複式炉の時代—縄文集落の画期—」

10/16（土）まほろん開館20周年記念式典

10/23（土）縄文時代講座3「複式炉を考える」（仮）

定員24名 9/23（木）午前10時から申込受付開始

10/31（日）実技講座「土器づくり初級編」

定員5組（1組2名まで） 9/29（水）午前9時半から申込受付開始

11/6（土）・7（日）移動水族館「アクアラバン」

11/13（土）・14（日）縄文時代セミナー「縄文集落と葬制の画期」

定員24名 10/13（水）午前10時から申込受付開始

12/11（土）・12（日）・14（火）～16（木）・R4 3/6（木）

実技講座「土器づくり上級編」

定員8名程度 11/11（木）午前10時から申込受付開始

12/18（土）第3回館長講演会

定員24名 11/18（木）午前10時から

申込受付開始

## 編集後記

コロナ禍が長期化する中で、開館20周年記念式典が規模を縮小し、10月16日に行われます。同日には当館収蔵の国指定重要文化財「法正尻遺跡出土品」等を展示する企画展の第3弾が開幕。同遺跡の図録も刊行されます。まほろんの20年ともに、縄文の「いにしえ」にも思いを馳せてみたいものです。

まほろん  
通信  
vol. 81

令和3年10月13日発行

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）  
休館日 月曜日（月曜日が祝日・休日の場合にはその翌日）/ 国民の祝日の翌日（土・日曜日に当たる場合は開館）/ 年末年始（12月28日～1月4日）  
入館料 無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）

お問い合わせ



福島県文化財センター●白河館

〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86

☎ 0248-21-0700

fax 0248-21-1075

ホームページ まほろん

検索

